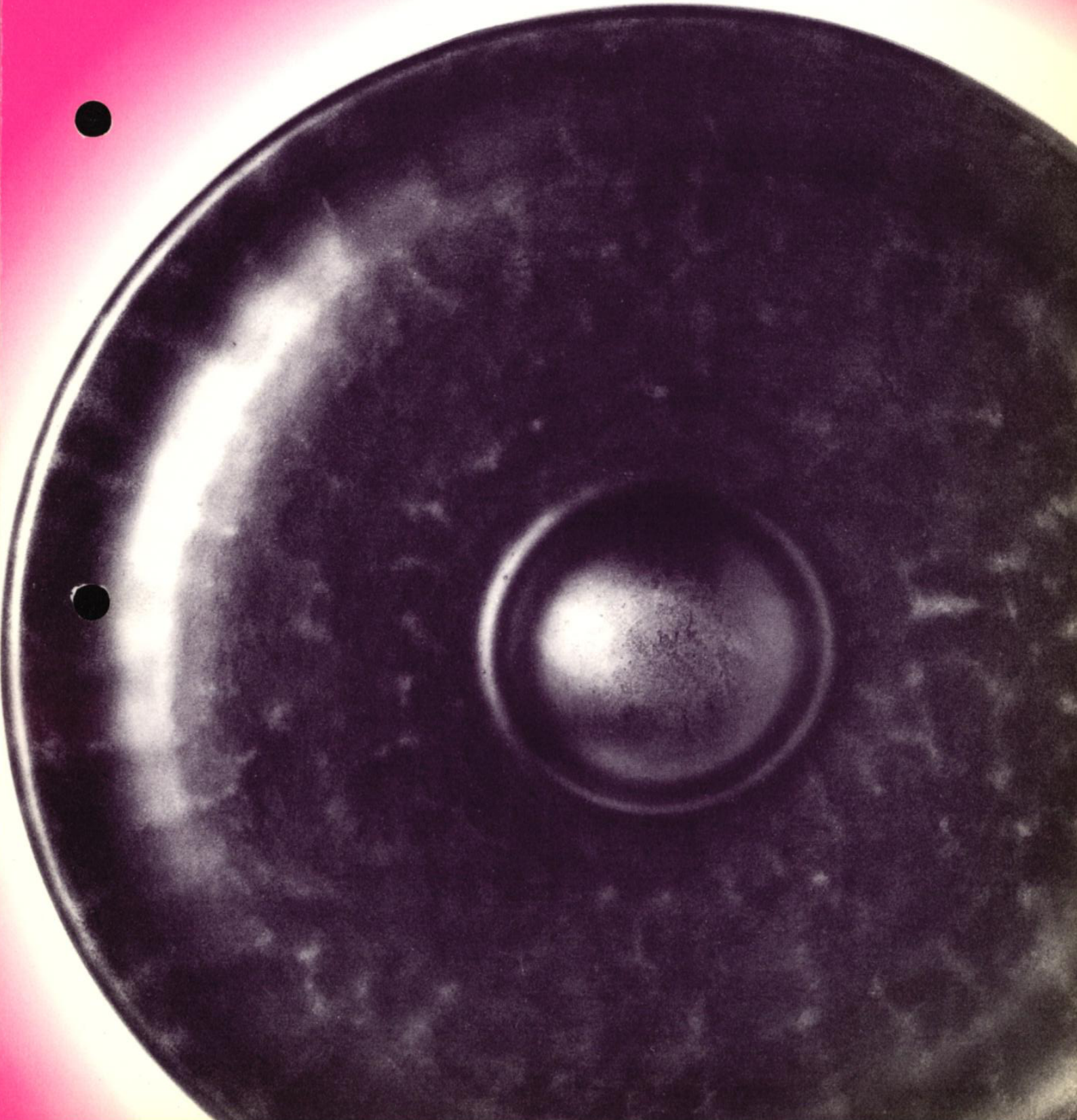
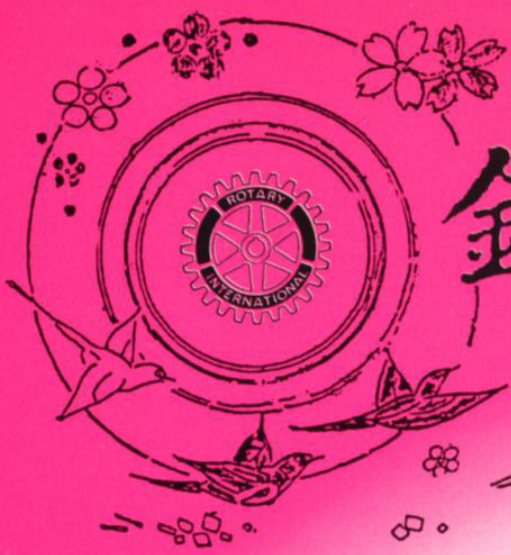


ROTARY CLUB OF **KANAZAWA-NORTH**

1996年1月25日 第551号

金澤北ロータークラブ



終戦の頃

俵 外代吉



私は、会員番号29号の俵外代吉と申します。この北クラブのチャーターメンバーとして加入させていただきました。

私は、大正14年9月26日生れで、昨年9月で満70才となり、最近では、腰やら肩やら時々痛くなり、正に高令者の仲間入りとなりました。医療費が、無料となる年令になり喜んで良いのか、悲しんで良いのか迷っているこの頃です。

私の名前が外代吉と「外」がつくのは、大正14年生れは牛歳で当時は「ねまり牛」と呼ばれ、特に女性は家に居坐って嫁に行かない「牛歳」と呼ばれ名前に外代子、外美子、外志子等「外」の名前を入れる習しがありました。それで男の私にも鈍重で動かないと思われ「外」をつけたそうです。矢張り今でも余り外へ出る事は好きでなく、家で仕事をすることが好きです。

私が丁度、中学の時、12月8日朝、戦争が始まりました。大変お天気が良くとても寒い朝でした。学校の朝礼で校長先生が日本が必ず勝つから皆さんは、お国のために一生懸命「ガンバッテ」下さいと云われ、私達は終始緊張してお話を聞いていました。それから毎日1時間は軍事教練、週に1度は、5発だけの実弾射撃、正に軍事一色になりました。

それから金沢工専機械科に入り1年ばかりで学徒動員で当時軍需工場の石川製作所にてしばらく現場に働き、直に富山市の海軍監督官事務所へ派遣され監督官助手の補助をする様に命ぜられました。

当時ボールベアリングを造っている不二越工業と、小型機関車を造っている立山重工業へ毎日の様に通い、検査等を行っておりました。たまたま、7月31日朝、学校から電話があり至急連絡したい事があるから今日、学校へくる様にとの事なので、切符を手配し学校へ行ったところ、仲々、用事が済まず、午後おそくなりました。すぐ富山へ帰っても夜になるし、今晚家に泊って明朝早く帰った方が良いと母に云われ当日泊ることにしました。

すると、その晩、富山が空襲に会い、全市丸焼けとなりました。

翌朝、すぐ、富山へ行きましたが、残っている建物が1つ2つ、道路には黒こげの死体ごろごろと横たわっていて、地獄とは正にこのことかと思いました。



魚住安彦会員画

私の家庭

今井 嘉津夫

次男が東京で就職したあと、小学校の教員をしている長男と、公務員の妻、それに私とで3人暮らし。その3人がそれぞれバラバラの帰宅時間で、夕飯は1人ずつ3度に分かれる。ワイワイやるのは週末に友人を呼んで麻雀を打つ時ぐらい—そんな生活がここ2、3年で大きく変わってきた。



長男が結婚し、すぐに男の子をもうけた。私にとって初孫である。今ではその孫も1才半を過ぎ、朝起きてから夜寝るまでいたずらのしどおし。今の時代の子どもらしく、言葉もわからないのにテレビやビデオのスイッチを覚え、幼児番組のビデオを見せるとせがむ。

おかげでナイター中継もニュースも最初から最後まで見られたためしがない。

似たような状況のご家庭も多いことだろうけど、孫のかわいさに負けてしまうのもきっとどこのおじいちゃんも共通だろう。

そう、趣味や家族について書くのだった。孫のいうところの「パパ」「ママ」—つまり長男も嫁もそろって小学校の教員である。息子のほうは男にしては珍しく、ピアノを弾く。小学校の授業で必要なのだろうけど、そういうレベルではないらしい。ベートーベンだのシューベルトだの練習に余念がないが、私には何の曲だか、それがうまいのか下手なのか、わからない。

その「ママ」はフルート。こちらの方は、育児の合間をぬっての練習。秋に発表会があって「パパ」が伴奏を務めるとか。孫と聴きに行きたいところだが、幼児が騒ぐと迷惑だろうし、私は居眠りしそうだし…家で子守番でもしようか。

妻は、謡曲を習ってもう長いが、恥ずかしながらこれだって、何と言っているのか、うまいのか下手なのか、私にはさっぱりわからない。

というわけで、金沢は屋根から謡が降ってくる町だとか言われているが、いまのわが家は、謡は少々、あとピアノやフルートに混じって、子どもの泣き声や、「じいちゃん」「パパ」「ママ」といろいろ飛びかうこの頃である。

こう書いてくるうち、私のことがいっそう書きにくくなった。まあ、人様に言うほどの趣味もないのが事実だが、仕事に追われて、やりたいことがあっても時間がないということもある。

そう。最初に書いたが、週末に麻雀パイをかきまぜながらワイワイやる、これは昔からの楽しみである。

金沢7ロータリークラブ新年合同例会



